

小田原

報 廣

まちづくり情報誌

2000

3月号
/1

平成12年3月1日発行
No. 766

火事だ！ 119！
完全攻略マニュアル



「火事だ！」

あなたはこの緊急事態に、適切な対応ができるだろうか。
あなたの行動ひとつで、被害を最小限にとどめ、貴重な命を救うことができるかもしれないのだ。

ひとことではない。実際に小田原市では平成11年に76件の火災が発生し、死者3人・負傷者10人の人的被害と1億8千万円の物的被害があった。

さあ、覚えよう。

いざというときのための完全攻略マニュアルを。

●消防本部 ☎494410

火事だ! ダイヤル 119!

完全攻略マニュアル

ステップ0

火事発見。通報!

火事を発見!
いそげダイヤル119

この通報を消防指令室が受信し、状況を把握し、消防部隊が現地に出勤する。

状況を完全に把握するまでのやりとりは30秒、出勤するまでに約1分が理想。

しかし、現状では通報者は緊急事態に動揺したり、正確に情報が伝わらないため、出勤するまでに時間がかかってしまうケースもある。

その間、火は確実に燃え続けているのだ。

豆知識

消防車は、119番通報から平均約6分で現場到着し、放水態勢を取るまでに約2分。また、救急車も約6分で現場に到着ができる。例外的に山林の火災などは、多少余分な時間がかかる。

強風時は延焼速度が増すので、火の扱いには十分注意を。



コンピュータを使った指令台に119番で通報された情報を入力すると、災害発生地点の付近の地図が画面に表示される。それから災害内容にあった出場隊を編成して指令を出す。

また、通報者があわてていて、大事なことを言う前に電話を切ってしまったときも、消防署のほうが電話を切らないうちは、電話がつかっている仕組みになっているので、通報者を呼び出すことができる。

もしいたずらなどで勝手にだれたかわかる仕組みだ。

極意その1

状況を正確に
把握するべし

ダイヤル119で
消防指令室が書き取る
メモ用紙はこれだ。

この情報が
必要だ!

①まずは何が起こったか
落ちついて連絡。

②住所または目標物を確
認せよ。

●何も目標物がなければ近くの
電話ボックス・電柱を探せ。必
ず番地が書いてある。

●アパート・マンション・ビル
の場合は何
階であるの
か確認



③状況を知らせて

●けが人がいるのか、避難でき
ない人はいらぬのか確認で
きればチェ
ックして



④100~200m範囲で
大きな建物・交差点を
見つけて



⑤あなたの電話番号を教
えて

●携帯電話の場合、自分の番号
を覚えていない人がいる。必ず
覚えよう

119受信紙(携帯兼用)

覚知時刻 時 分

種別	火災	救急
住所 場所		
氏名 通報者	男	
	女	
概要		
目標		
電話番号		

豆知識

市内からの携帯電話での通報は、横浜・川崎から転送されていたが、昨年10月から直接に小田原市消防で受信できるようになった。転送時間の短縮が貴重な。



携帯電話からかける場合は必ず立ち止まったり、車を停めてから通報するべし。電波が不安定のため途中で切れる恐れがある。事故防止のためにも車を降りて、冷静に位置確認をしよう。

極意その2

ダイヤル
119

これが通報の極意です。

消防部隊がやってきた

指令室からの出場指令を受けた消防部隊が出勤。火災現場には指揮車、ポンプ車、救助工作車、梯子(はしご)車、救急車などの車が集合。各隊の役割により、車も色々。毎日の訓練の積み重ねと使命感でどんな火にも立ち向かう。



現場に到着すると、車が指揮本部に早変わり。指揮隊のジャケットのポケットには調査に必要な器具など7つ道具が一应俱全。

1 指揮隊

現場において複数の隊の指揮をとる。状況によっては指令室に連絡し、追加応援隊を要請する場合もある。延焼状態・救助者の有無・避難経路・危険物など消火活動に必要な発災地の状況を収集し、他の隊に正確な情報を提供する。

「1」がポイント

指揮隊は、現場の状況を一刻も早く正確に把握したい。現場で状況を聞かれたら、事実を簡潔に話して欲しい。

「2」をわかって

だれもが一刻も早く消火したい。でも、現場で「火を消さない消防隊員」がいることも理解して欲しい。消火活動や原因調査のための情報収集も重要な任務である。

2 消防隊

消火活動を行う。消防車で現場に向かい、そのポンプを使って消火栓・防火水槽・川などから吸水し、ホースで一気に放水する。

「1」がポイント

消火栓などの前後5m以内の場所に駐車すると違法駐車となる。それ以外の違法駐車でも、消防車が進入できない場合も考えられる。くれぐれも法は守って。

「2」をわかって

火災現場の直前に消防車を配置できれば最高だ。でも、水がないと消火はできない。現場から離れた吸水場所に消防車を停車し、ホースを延ばすこともあるのだ。

豆知識

昨年の市内の出火原因は放火(疑い含む)が21件でトップ。これは平成4年以降第1位の恐ろしい結果だ。



重さ8kgの防火服。首からかかった呼吸器のマスクが必要なものもある。火の粉と水をたっぷりかぶり、出勤後の顔は真っ黒。

3 救助隊

毎日の訓練で鍛えあげた体を張って人命救助にあたる。猛火の中を果敢に飛び込むこともあるのだ。

昨年8月、山北町の玄倉川で発生した水難事故へ、16日間にわたり、救助応援に出動。延べ人数は146人にもなった。

ここがポイント

消防部隊到着までの初期消火は重要だが、消追いは禁物。夢中になり逃げ遅れた例もある。救助隊がやってきたら、人命救助の



4 救急隊

かけがえのない命を救うには時間との競争。一分一秒が救急活動の勝負を分ける。傷病者がいれば、病院まで救急搬送だ。

ここがポイント

火災現場は混乱し、負傷者の有無が確認できないこともある。負傷者の情報をつかんだら一刻も早く救急隊へ知らせよう。

ここをわかって

一秒でも早く病院に向かいたい。でも、傷病状況を把握し、受入条件が整っていない病院が決まらないうち救急車は出発できないのだ。あせるのはかわいだが、隊員の指示に従って落ち着くことが一番。

必要性や部屋の状況などの情報が貴重なものとなる。

ここをわかって

人命のためなら、火の中、水の中。でも、天候や危険物、資材の有無によって二次災害を避けながら救助を行わなければならないこともある。



身軽に動ける制服。これも耐火性だ。いざというときには、車のフレームも切り取ることができ大きなカッターで障害を取り除く。



市の最新式の高規格救急車と救急救急士。車内にはさまざまな最新式機器と工夫がある。ビニールで作った臭いの少ない手すりのおう吐用袋や幼児をあやす人形などがある。

情報満載
消防ホームページを見よう



WWW.CITY.ODAWARA.KANAGAWA.JP

豆知識

急病・交通事故・負傷などを含め、市内の昨年の救急出場は6,920件。搬送は6,623人。前年より357件、356人増加した。



3月1日〜7日は
春の火災予防週間

オリジナルステッカーを全戸配布中。電話の近くにおろそう。



小田原
時記

中学生の
1日消防隊員!



この日、消防本部に集まった鶴宮中学校の3人の生徒さんが、準備体操に始まって10メートルの高さからの綱渡り、そして消防自動車からの向かっての放水などを行いました。

普段、陸上部や野球部で鍛えている彼らですが、綱渡りでは「難しかった」と消防隊員の体力と技術に脱帽。消防隊員はかっこいい！僕もなりたい、と目を輝かせていました。

この中から、明日の市民の安全を守る隊員が生まれるといいですね。



教育 研究所

教育研究所が必要なわけ
教育は、テーマや内容も時代の流れによって変化します。また、地域にあった教育方法もあります。指導する側は先生も、常に時代のあった教育のありかたを研究する必要がありますので。そこで設立されたのが教育研究所。現在では、県内ほとんどの市が研究所を持っています。小田原市の研究所は今年50周年を迎えます。ここでは、幼稚園・小学校・中学校から委嘱された先生が、部会ごとにテーマを決め、今の子供たちには何が必要なのか、また先生ご自身の視点で指導していきたいのかなどを研究しています。その内容は小田原の自然や教科書の副読本「わたしたちの小田原」などの作成を始め、教育におけるコンピュータやインターネット利用、学校力向上センターとさまざまな、どんな研究が行われているのでしょうか。その中の一つ「環境教育」を例にとり紹介しましょう。

愛情は、 アカザからの贈り物

教育研究所研究員

桜井小学校

加藤 始さん

アカザって知っていますか？
「いわゆる雑草です。でも、これからは杖が作れるんです。加藤さんが一枚の写真を持ってきました。子供たちがうれしそうにまさしく手作りの杖だった。」

加藤さんは、小学校部会の一員として、研究した成果を現場で実践している。その一つが小学生によるアカザの栽培である。きっかけは、小学校2年生の授業の時。お年寄りと同居している児童から、おばあちゃんの暮らしたとき、アカザで作った杖とポットに入れた苗を子供たちに見せ「これが杖になるんだよ」と言った。「うそー、そんな小さい草が杖になるの？」とクラス中が盛り上がった。そこで、一人ひとりアカザ

を育てて
いこうとすることになり、杖つくりの活動が始まった。



加藤さんたちの研究は、「小田原の環境ガイドブック」に掲載され、教職員に配られる。

杖を作りたい。
熱心に願う子供たち

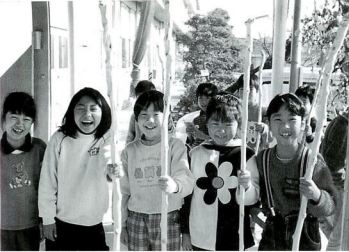
畑に植えた苗の手入れは子供たちが率先してやる。水道がない畑にどうすれば水をやるか、みんなが話し合った。畑で小さなかまきりを見つと見ると、彼らは、かまきりの動きをじっと見つめた。子供たちの目の色が変わってきたのが分かる。

苗がみんなの身長よりも高くなったある日、台風がアカザをなぎ倒していた。子供たちは、アカザを起し、一本ずつ支柱に縛った。近所の農家の人が3点支柱の方法を教えてくれた。風が強く、クラス全員的心が一つになっていた。

「杖をつくりたい」と願う心がそうさせたのである。

毎日が発見の連続

すくすく大きくなるアカザをわが子の



心のこもった世界に1つのプレゼント

「おしんちゃん」
「おははは、1学期からいっしょうけんめい作ったアカザの杖をクリスマスプレゼントでおげます。たのしみにつかってください！
自分のおひんやんに贈った。近所の足の不自由なおばあちゃんに贈った。自分が年をとった時に使うと話すと、使い道はさまざまだったが、みな本当にうれしそうにアカザ杖を持ち帰った。しかし、子供たちが持たせたものは杖だけではなかった。かけがえのないものをいくつも手に入れたのである。

面談時間

文 小澤良明

市長随想

新聞紙上で小澤総理のスケジュールを見ることがあるが本当に刻みの激務である。面会も物理的にギリギリのところで折合いをつけるのだから極端に短時間の場合が多い。「何々をヨロシク」「アア、ソウ」でな話し程度しか出来ないだろう。気の毒な限りである。

某新聞に私や周辺自治体の首長の日程も公表されているので、よく「市長さん、大変ですね」と思われる。総理と比較するのもおこがましいのだが、特に1～2月は城下町のせいひん昼間から夜まで新年会だけでも多い時は七八件にもなっておりは超ハードになる。通常月でも雑事繁多で実際の仕事を全部載せきれない。

市長室にお迎えするお客様も簡単な表敬訪問や難しい相談やさまざまな多彩でそれこそ市長の仕事の大きな一つと、来訪者に少しでも心地良く感じてもらいたいといううと精一杯応対するのだが、上手くいかない場合もある。相手様の感情の動きはそういう時ほど痛くようにこちらに伝わってきて、私の方も否応無くストレスをためる。何かと厳しいご時世なのだから当たり前と言ってしまうは求めたが、市長室で深刻な決断を迫られたり、理不尽な話しや耳に痛

環境から学ぶもの



ように慈しみながら、子供たちはアカザについて勉強した。葉っぱがお腹の薬として薬元の役目をすることを調べてきた子供もいた。

そして、いよいよ秋つくり。1m 70cmにもなったアカザを切り、皮剥き。子供たちは一番皮を思い、皮剥き。子供たちはそれぞれ皮をむき、ニスを塗って、いよいよ手作りの杖が完成。大歓声が上がった。

加藤さんが、環境教育グループで活動を始めたのは小田原市が平成7年度に環境元年と定めた翌年から。



「子供は、自然から大切な事を学ぶのです。小さな虫が葉っぱに付いたしずくを飲むやから、水の大切さや命の尊さを感じます。やがて彼らは、川の汚れたなどの問題を発見し、自分たちから「川を掃除しよう」と考えるの

う。これは生涯学習ですね。アカザの栽培を通じて、教師も、自分自身が常にアンテナを高く持つことが大切、というところに気がつきました」

です。環境教育は、すべての教育に通じていきます。生きる力を育てるためにも、幼いころにこのような体験をし、豊かな感受性を育てることが必要です。も

おたまじやくしのススメ



与えるだけの教育なんて

「田んぼでおたまじやくしを見つけたよ」と誰かが言うと、子供たちは四苦八苦しながら色々な道具をつくり始めるんです。これってとても大事な事です。今、久保寺さんが研究している環境教育部会、各幼稚園から一人ずつ集まって毎月1回、研究を行っている。

「子供たちに必要なのは、物を教えることよりも、自分で考える能力を育ててあげることなんです。『○○しない』と言えはできないようになりませんが、それは押しつけに過ぎません。幼児にとつては、かえってマイナズなのです」

幼児教育に求められているのは、豊かな感性をもって、自分で判断できる力をどうよにすること、つまり、おたまじやくしをすくうのに何がよいかを子供自身が考える過程が大事なのだ。田んぼまで行く途中では、あぜ道に花が咲いているのを発見し、小さな昆虫が息づいている

教育研究所研究員

下幼稚園

久保寺 佳香さん

地域との交流も環境教育

のを感じる事ができる。幼児教育には、自然と触れ合うことがとても有効なのである。研究会では、公立幼稚園周辺のまわりを実際に歩き、観察マップを作成した。自分の足で確かめることで、自分たちの知らないまちの姿がたくさんあることを、あらためて学ぶことができたという。

「去年は、園児が下中地区のたねばの里(特別養護老人ホーム)で、お年寄りに童謡を歌う機会がありました。子供たちの歌をとっても喜んでいただきました。地域の方との交流もでき、子供たちの心に深く残っているようです」子供をとりまくすべての環境が教育の材料になる。

子供たちがいかに興味を持って体験し、自ら学び取るようになるか、これが切実なのだ。これが研究の結晶だった。



「先生にとっての勉強会、この研究内容は冊子にして各先生に配布され、今後教育に生かされていくのである。

「時間のあいさつ、世間をなし、そして肝心の面会趣旨の伝達、返答、多少の人間のやりとりとこの場の多い、別れのあいさつ、このう書くとか何か冗漫なだけの印象を抱かれかねないが、一般的な人間関係ではこれが面談の常識的な終始であろう。いわゆる無駄話を含めて情緒的なやりとりが少な過ぎるから世の中ギクシャクする。人間社会、一緒にいる時間が長い方が良いに決まっているのだから。翻つて私はと言えは、人様とお逢いするのが大好き人間でむしろ喜々としてこの過密スケジュールをこなしているのだから、予定した短い間に余計な話しまでして折角の相手様の貴重な時間を潰してしまつたり失礼をすることも多い。自分では「情が濃いいせいだ」と、とか強弁して聞き直つたりしているのだが、お互い忙しい身を融通し合つて都合をつけるのだから、充実感や満足感まで行かなくても、少なくとも「達つて良かった」ぐらいの思いは残したい、と時々自戒するのである。



受け継がれる看護のこころ

家庭介護に アイデアを

市立病院看護部 343175



▲看護の日に紹介したアイデアの一つ。ビニール袋と新聞紙を利用しており、寝たままシャンプーができる。

現代社会に必要な、もう一つの看護

「現在の高齢社会は、病院ではなく家庭で介護を受けている方が大勢います。私たちは、病院の中では患者さんに接すること

ができます。しかし、病院に來られない患者さんを直接お手伝いできる機会がありません。だから、何とかして介護をされている家族の方のお役に立ちたかったのです」と話してくれた白衣の天使たち。彼女たち

近代看護を築いたナイチンゲール。5月12日、この日ナイチンゲールは生まれました。彼女は、クリミア戦争を舞台に兵士同士が血を流す中、敵味方なく傷病兵の看護をし、クリミアの天使と呼ばれました。その後、彼女はこの功勞に対する表彰金をもとに看護学校を創設し、看護制度の改善に努めたのです。以来、5月12日は優れた看護婦を表彰する日として「ナイチンゲールデー」と名づけられました。日本でもこの日を「看護の日」とし、各地でナイチンゲールの育てた看護のこころを受け継ぐため、さまざまなイベントが行われています。

は、自分たちのアイデアを出し合っている。看護婦・看護士による手作りの家庭介護用パンフレットや、介護用品を実際に作りました。そして、看護の日に紹介することにしたのです。

この試みは好評で、「もう一度聞いて欲しい」という手紙が多く届きました。

「4月からは介護保険制度がスタートしますが、それでお金のかかることはあるでしょう。高価な介護用品をどうえなくも、工夫をすれば、身の回りにもあるものでも介護の役に立つのです」

今年の看護の日は、少しでも多くの情報を提供できるように、とアイデアを公募することにしました。

看護は、与えて、また受けとるもの
看護は、支えて、支えられるもの

「私たちが、看護に携わるもの一人として、患者さんの心と体を癒すために努力していきたい」と語ってくれた彼女たち。ここにもまた、ナイチンゲールの教えが受け継がれているようでした。

看護の日は、さまざまな病院で、工夫をこらした催しが行われます。

募集中

家庭介護にひと工夫

看護の日に展示する「家庭介護 私のひと工夫」のアイデアを募集します。申込は3月31日(金)まで。詳しくは、「広報おのわらいください」2月15日号をご覧ください。

市立病院看護部
☎34-3175

手に持っているのは、針金ハンガーをカットしてストッキングとリボンで飾いたもの。ベッドにかければ、杖スタンドのごみ袋かきになる。
写真右 北見婦長 (左) 山本婦長



フラワーガーデン友の会

みんなで育てる フラワーガーデン

～ガーデニングは楽し～

植物を見る時は、いつも心なごむものだ。

オオイヌノフグリ、フキノトウ、ツクシ、クサボケ、キブシ、ヤマブキ。みな小田原で見られる春の野の花である。このまちでは、多くの自然の花に出会うことができる。嬉しい限りである。

ガーデニングを愛する人たち

アメリカ東海岸のペンシルバニア州では、春の花のシーズンになると、「ガーデン・デー」(5月～6月)コンテストが開かれる。植物好きの多い地域で、家族ぐるみのアイデアでガーデニングを楽しんでいる。この日、皆が自慢の庭を開放し、お互いに楽しみあう。彼らの「ガーデン」は、人間が手を入れたものだけでなく、森や原っぱ、畑や道まで、家の周りの敷地まですべてを含んでいる。

日本でも「花を育てる」ときが街中のライフスタイルとなっているまじがある。長野県小布施町。駅を降りると、そこにはとぎれることのない花の道が延々と続いている。しかも花は沿道のみならず、ほとんどすべての家の前にも並んでいる。皆が心から花への愛情を持って自率的に行っているのだ。とても素晴らしいことだと思う。

小田原でも最近、街角で花を植えている光景をよく出会う。

フラワーガーデンの新しい試み

小田原市では、平成7年4月29日みどりの日に、小田原フラワーガーデンがオープンした。ここは、南国ムードいっぱいの「トロピカルドーム」を中心に、250種類もの梅が咲き誇る「深溪の梅林」など四季折々の花や草木が訪れる人の心を和ませてくれる、まさに小田原のオアシスである。

そんなフラワーガーデンで、昨年から新しい試みが始まった。それは公募によって集まった市民ボランティアによる「フラワーガーデン友の会」の発足。

彼らは、歩道の片隅に花を植えたり、公園をきれいにする美化運動を

行っている。

そこで、会員として活動されている本田さん夫妻に話を聞いてみた。

「私、花が好きなんです。友の会募集記事を読んで、すぐに申し込みました。でも、毎回早川からフラワーガーデンまで自転車で行くのは大変でしょ。そこで主人に声を掛けたくて。今では、二人でボランティアをやっています」と詔恵さん。



ご主人の佛司さんとともに、毎回のよう活動に参加している。詔恵さんは、ご自宅でもつぎ木、つぎ芽などとして植物を楽しみ、佛司さんも、ぐみ、きんかんなどの実のある木を植えて育てている。二人は、子供を育てるように植物へ愛情を注いでいた。「市の職員の方に、いろいろ教えてもらえるので楽しいですよ。家に帰ると、早速挿し木など、習ったことを試してみらんです」と話してくれた。

公園はみんなのもの。

だからみんなで育てたい。

本田さん夫婦の話に「現在は職員の手伝いといったイメージがあるので、お互い

の考えを話し合える機会を設けて欲しい」という希望があった。植物が好きな人たちの集まりなので「こうする」とい」とか、



「こんなことをやってみたい」という希望を皆が持っている。最近では、ガーデニングブームに乗って、パンジー、デージー、クロッカスなどの花を植え、家庭でガーデニングを楽しむ人も多い。

今後、フラワーガーデンが自分の庭のように夢が膨らむ「市民の庭」となったら素晴らしいと思う。そのために、友の会の皆さんにはますますがんばって欲しいと感じた。

公共施設という「利用はするが運営は市の職員任せ」ということが多い。しかし、フラワーガーデンのように私たちが楽しむところでは、より魅力を高めるために市民と一緒に作業することはとても素晴らしいことだと思う。

私の両親も趣味で庭にたくさん植物を育てている。これをきっかけに、私も何か育ててみたいと思う。

募集 フラワーガーデン友の会新規会員

月1回の作業活動と講習会を行い、花壇の植替や、梅のせん定などを楽しく学びます。お花を育てて咲かせることに興味のある方は作業を通して、草木の育て方や手入れ方法を、一緒に学びましょう。
応募資格 市内在住の方(年齢、性別は問いません) 毎回参加できない方も可。
主な活動内容(予定) 草花の育苗、花壇の植替、花高瀬の手入れ、梅の剪定、洋らんの株分け

応募方法 はがきに、「小田原フラワーガーデン友の会入会希望」、郵便番号・住所・氏名・年齢・性別・電話番号を書いて、3月28日(消印有効)までに郵送。
 ※参加者の送迎はありません

申込 〒250-0055 小田原市久野3795
 小田原フラワーガーデン ☎34-2814



シリーズ
● 報道解説

小田原の中心市街地の変遷

戦国時代、北条氏の城下町として栄えた小田原。

江戸時代に入ると東海道箱根越えの宿場町として、現在の国道1号線付近を中心に大変な賑わいを見せました。

大正9年、東海道線の小田原駅開設に伴い、商業の中心地は移り現在の市街地形成へといたしました。

しかし、小田原駅周辺にも近年になり、全国的に見られるいわゆる駅前ドーナツ化現象が見られることになりました。これを、長い不況や自家用車の飛躍的普及に伴う消費者の生活の変化、特色のある専門店の進出などが原因と見ることができますが、川東地域に大型店が相次いで出店したことによる地域間競争の激化といったものにも大きな要因があると考えられます。

なぜ、今、中心市街地の活性化

現在、国の支援のもとで多くの自治体が中心市街地活性化に力を入れています。しかし、今なぜ全国で、中心市街地活性化が叫ばれているのでしょうか。

本市の場合では、まず、小田原駅周辺がまちな顔であり、県西2市8町の拠点として人々の交流の場としての役割を期待されているということです。

次に、生涯を過ごしたいまちを想像したとき、そこには活気に満ち、安らぎと憩いがあり、皆が楽しむことのできる空間が必要であることです。

そして、これからの高齢社会を考えると、駅から歩いて買物をしますることのできる商店街の役割がますます重要

中心市街地をもっと元気に 小田原駅前の 活性化を考える

全国の中心市街地では、大型小売店の撤退やシャッターが閉まったままの店舗が見られます。

小田原も例外にもれず、小田原駅周辺がさびしくなったという声を良く耳にします。昨年末に行われた主要商店街流動客調査による通行量でも前年比マイナス15.2%という厳しい結果でありました。

今、「中心市街地をもっと元気に」との願いからさまざまな動きが起こっています。 〇〇商工課 ☎33-1519

になってくることが挙げられます。

つまり、中心市街地活性化は商業だけでなく、まちづくり全体の問題として捉えれば、小田原市の未来のための当然の答えなのかもしれません。

時代の流れへの挑戦状

本市も早い時期から商業関係者をはじめとし、市民の皆さんとともにこの問題に取り組んできました。そして作られたのが、昨年の広報おだわら5月1日号で発表した小田原市中心市街地活性化基本計画です。

計画では小田原駅周辺300ヘクタールという広いエリアを中心市街地と定め、重点整備ゾーンや伝統の街並み形成ゾーン、ふれあい海浜公園ゾーンといったエリア設定による、地域の特性を生かした活性化を目指しています。

そして、歴史・生活・文化に根ざした「あじわい」と「にぎわい」のまちという言葉を目標に、90を超える事業を位置付けています。

救世主 現れる！？

この中心市街地活性化対策の二期的

な点は、市が策定した基本計画に即して、商業者を中心となって商業などの活性化を図るための構想づくりに取り組んだところにあります。

言いかえれば、この構想づくりを通し、厳しい商業環境を生き抜くために、自らが果たす役割の重要性を実感し、商業の活性化を通じたまちづくりに対する責務の大きさを多くの商業者の方が認識したところにあるといえます。

こうした商業者の生き残りをかけた取り組みは、市民の皆さんや行政の英知も結集し、TMO構想として実を結びました。そこには中心市街地が直面している厳しい状況を自らの手で切り開いていこうとする決意が掲げられています。

自分が生まれ育ったまちの将来を真剣に考える…まさに、まちの「住み手」、「使い手」である商業者、そして市民の方々が、同時にまちの「つくり手」として登場する、そんな活躍の舞台が整ったわけです。民間の方々によって生み出されるこうした取り組みのパワーの中こそ、中心市街地活性化の救世主の姿が現れてはいないでしょうか。



4月23日、
次の予定は
回の手紙で
楽しみます
ね。

環境に関心を持つ現代人、確かに増えているようですね。



楽しく元気に
リサイクル!

1月23日、環
境事業センター
で恒例のリサイ
クルフェアが行
われました。大
型ごみとして捨
てられた家具などが、職人の
手によって命を吹き込まれ、
再び皆さんの手元に帰って行
きました。と言っても、すべ
て新品同様。しかも破格の値
段とあっては、人が集まるの
も当然と言えるでしょう。

当日は、市民の皆さんによるフリーマーケットも同時に開かれました。「不要な物をごみにせず、必要なら人に譲りすんだから、役に立ってらるって感じですね。それに楽しんでですよ」と小雨まじりの中、寒さにも負けず元気いっぱいの出店者たち。環境に関心を持つ現代人、確かに増えているようですね。

小田原 彩 時記



“赤電”の愛称で地域に親しまれ愛されてきた大雄山線150系電車。この電車は昭和51年(1976年)から20年間、走行距離は103万5千キロメートル、地球を25.8周したことになる。さよなら運転では小田原駅ホームで別れを惜しむマニアたちが約300人集まり、感謝の拍手とフラッシュの嵐が浴びせられた。現在は、冷房化率100%でステンレスボディの5000系が活躍中。

ありがとう 赤電

押田 静男(府川)

私は富水地区の府川に生まれました。この地は昔から名前のとおり川の流れるがとても清らかでした。

私は物心がつく前から、川が大好きで近所のおじさんと小川や酒匂川に行き、水が流れる様子に手をたいて大喜びしたそうです。

小学生になると、通学途中にある狩川の上から、下をのぞき込んでいました。そして土手に咲く季節折々の花の美しさに感激していました。

そのころの一番の思い出は大雄山線の電車でした。幼な心にもかっこいいと感じた赤色の電車で飯田岡駅などで出会う度に「乗りたいよー、乗りたい。どこかへ連れて行ってよー」と買い物帰りの母

によくだだをこねた記憶があります。

そのようなわけで、休日には母は終点の大雄山駅まで私をよく連れていってくれました。車窓からの点在する家や水をはった田んぼや小川のきらきらと光り輝く田園風景が大好きでした。その美しさに誘われ私は身を乗り出すようにして土足でシートに上がり、その度に母から叱られました。

終点の大雄山の駅前では、金太郎と熊の絵にお決まりのようにあいさつをして、私のいつもの小旅行は終わりました。

時代の流れの中で、この赤電が姿を消すニュースを聞いたとき、寂しくせつなく思いました。

今や世の中は大きく変わり、私の毎日

のピッチは速まり、また行きゆく人も忙しそうに歩いています。しかし、どんな時代になっても、ガタゴトとゆっくり走る赤電とともに過ごしたこの思い出を大切に、大好きな小田原のまちの未来もおおらかな気持ちで見守っていきたく思います。



150系国鉄の上り南総記念線電車
小田原駅発車時

さよなら運転を記念して発行された乗車券。小田原から大雄山間の片道乗車券で料金260円。約1000枚が完売した。



絵と織部 3月3日(金)~21日(木)
ひな祭りに鳥居由紀展 3月11日(土)~13日(日)

馬場さんは益子に住む陶芸家。高内秀剛のお弟子さん。先日一緒に韓国の手朝の家具を探しに旅をしました。とても明るく楽しくおおらかな人。そんな人柄がやきものにもすぐ出ていて人をホッとさせる。ひな祭りに小さなものでも加わったら、きっと華やかに違いない。
うつわ・葉の花 高橋白一

次回：丸山正「黒物着展」3/24(金)→27(月)
うつわ・葉の花 ☎24-7020 OPEN11:00AM~6:00PM 水曜定休



まいとうん
レポート

さわやか タクシー

小田原流もてなしがうれしい

「タクシー業務は身だしなみ、言葉づかい、態度の3大要素が大事です」と県タクシー協会小田原支部の曾我信之さん。



「ドアを開けた瞬間の第一印象から降りるまでの短い時間に、いかに気持ち良く乗っていただけるかが勝負なのです」と。

現在、小田原支部(加盟17社)の全車594台が「さわやCAR」快速運動を実施中。

「観光地小田原独自のサービスは何かと考え、お客様本位のサービスを行っています。まず、県内のタクシーでの禁煙状況などを分析した結果、タクシー運転手の8割が喫煙者であったのに対し、乗客のほとんどが喫煙者でも車内でたばこを吸わないことがわかりました。そこで「お客様に禁煙をお願いする前にはまずは自分から」と「運転中に車内では禁煙」としました。もちろん勤務外でもポケット吸い殻入れを持ち歩き、ポイ捨てはしません」ときっぱり。

「さらに、車内のたばこのにおい対策として灰皿内に消臭剤を入れたり、お客様が喫煙した場合には降車後に消臭スプレーを使用することになりました。長時間の待機は環境を考え、アイドリングをストップしています」とこやかに話す。

運転手さんのあたたかい笑顔に乗せたタクシーが、今日も城下町小田原を走る。

「さわやCAR」のステッカー。お客様の協力のもと、全県禁煙タクシーは現在5%あるという。



小田原の早春賦

春の自然の花や昆虫たちの 生き方体験

生き物には、季節ごとの日照時間や温度の変化にあわせた、特有な生き方がみられます。水ぬるむ早春、自然豊かな小田原の野山に、春の訪れを知らせてくれるさまざまな生き物たちの姿を探ってみましょう。

日本自然保護協会 自然観察指導員 常盤 博 嵐山

早春の雑木林を歩く

「春は春のみの風の寒さや、谷の鶯、歌は思えど、」早春賦の一節です。立春を過ぎると、日増しに陽光は輝きを増していきます。葉芽の開く前の市内丘陵地の雑木林は、林床に光がまななくとどいて気温も昇ります。

この時期、市山内、林道、雑木林を歩いてみましょう。日当たりのよい場所でのうれしい出合いは、季節をあらわす「ジュンラン(ラン科)です。花芽は前年秋に形成され、開花の準備が進んで、2月半には膨らんだつぼみを見ることができます。園芸用の花壇と豪華さはありませんが、淡い緑にうす紅の唇弁(花弁)、透き

通るようで清楚な気風を備えています。

最近では市内山麓地域に多く見られるもの、かつては少なく咲く姿は、小田原に春を告げる第一使者の仲間といえます。

葉葉樹の開花は黄色の花ではじまり、目立つのはご存知の「オウシキ(キブシ科)です。林道側面陸地などに生育。樹高が3~4m、細かく2月末分岐しています。開花は葉芽より立ち、2月末から3月にかけて開花します。花は鐘形で淡い黄色、多数集まり穂状花序(1~10個)となっており、下向きに垂れ下がっています。つづいて、雑木林の「ヤマハコキ(ツナ科)が、尾状花序から花粉を散らしはじめのこの時期です。

人里に早春を告げる野草2種

◆ツクシとスギナ(下クサ科)

つくしたれの子(杉葉の子)とは童謡のことです。春を告げるツクシとスギナは、同じ根茎からでている同一植物です。ツクシが、同じ根茎、スギナが栄養茎で、花の咲く植物体、いわば、ツクシが花の部分、スギナが葉や茎の部分に相当するわけです。

スギナ(雑草相色)は、今から3億年前の地質時代(石炭紀)に繁栄した植物です。多くの仲間が絶滅するなか進化した植物です。ツクシの仲間を獲得、現在まで生き残ったものといわれています。長い生存の歴史からは、生きた化石とも考えられます。

市内の河原土手、あぜ道などツクシの芽生えはおおむね3月はじめです。地上に出た芽は10日くらい伸びますが、頭部の穂穂は2~3枚の胞子が飛散します。この様子は肉眼でも見えます。飛散後、確かくみてみてください。成長した葉を指先で、しっかりと淡緑色の胞子が飛び散ります。胞子が飛散したツクシは枯れ、かわってスギナが芽を出します。スギナの体の大部分は草で、葉緑素を持ち、光合成を行い合成した物質を地下茎に蓄えます。スギナは農家にとって田・畑などの雑草で、やっかいものです。しか

小田原 彩時記

穏やかな
空気に包まれて

1月16日(日)に開かれ小田原東語祭は、童謡にスワットをあてた。北原白秋が小田原にいたころの「エピソードや、この道」などが披露された。スギナ、小田原出身の西由起子さんの独唱など、内容は盛りだぶりで参加。会場全体が盛り上がりました。

知らない人同士、心も近づく。気持ちよく、やかにしてくれられた。童謡は、日本人の心のふるさとなのかもしれせん。



DUSKIN 小さな子供がいてもOK!

在宅パート募集

●**サーブハーティ**(業務委託)
ダスキン商品の交換・お届けをしますお仕事です!!
★週1日からOK
★2時間程度
●月収見込 **1万円** (売上により異なります)

●**サーブ50**(業務委託)
ミゼットに集って商品の交換・お届けをしますお仕事です!!
★週3回
★出勤は週に1回
●月収見込 **5万円** (売上により異なります)

ダスキン早川支店 小田原市板橋286 ☎(23)4100
—お電話を頂ければ説明にお伺い致します— 担当/安藤



オオイサノフグリ

し、ツクシは古来より日本人の春の自然や食卓の風物詩として、親しまれてきた野草の一つでもあります。

◆オオイサノフグリ(コマノハゲ科)

市内の野草で、時に一年中開花のみられるセイヨウタンポポを除くと、オオイサノフグリは2月はじめに咲き出す早春花です。種子は秋に芽生えて、厳しい冬を耐え生き残る越年草です。冬期の枯れ草に混じって生育している様子は、寒さ対策のようにも見えます。

花弁は4枚で上方の1枚が大きく、濃藍色のすじがあります。パッチリと睡が開いたようなコバルト色の花は、多くの人に春のさきがけを感じさせる野草です。

日本には花弁の小さい、淡いピンク色のイヌノフグリという在来種が生育していました。オオイサノフグリは明治のはじめ、牧草の種子と混じって渡来した帰化植物です。おう盛な繁殖力でイヌノフグリを圧倒し、全国各地に分布を広げています。小田原での分布もオオイサノフグリが多くなっています。



ツクシ



アカタハ

花粉媒介昆虫の活動が15度以上です。それに合わせて開いているようです。植物とはいえ、巧妙な特質を持つ花の1種でもあります。

「啓蒙」とは「小動物の躍動のはじまり」

24節気の一つ。太陽暦では「雨水」後、15日目の3月5日6日ごろになります。

地中で冬ごもりの昆虫や小動物が、春の到来を感じ、草木の萌芽とともに地上にはい出てくるといふ意味です。

◆チョウの仲間

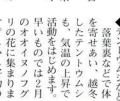
市内の丘陵地帯や河川敷のアブラナ科「菜」

名前の由来は作られる種子が「つづく」びれ、その形が犬の「精養」に似ているところからつけられています。花は1日開き、花弁は1日目で落ちるようです。また、ちよつと触れただけで花弁が落ちることもあり、「ハツ(花)カケバア」の別称もあります。花は昼間開いて夜間は閉じます。また、温度との関係が特異で15度以上で開き、それ以下は閉じるようです。ハナアブ・ハナバチなどは閉まっていると見えます。



モンシロチョウ

花の開花にあわせモンシロチョウが飛びはじめ、タンポポ、シロツメクサの花にはモンシロチョウが集まります。モンシロチョウは幼虫で吸います。また、林道筋の日当たりの良いくぼみや枯れ草のなかで、キタテハ、アカタテハ、ルリタテハの仲間がひなたぼっこをしたり、時に2月でも飛ぶのを見ることがあります。この仲間には成虫で越冬した個体です。よく見ると羽がぶれたり、すたたりしていて、冬の寒風にもよく耐えられます。また、小型のシジミチョウやセリチョウの仲間が、ハルジオンなど白い花の頭上をせわしなく飛び、餌を求めの姿が目につきます。つづいて、春も盛りとなると大型のアゲハチョウ(カラス・オナガ、ジャコウアゲハなどの春型)を告げてくれます。



ナナホ

◆テントウムシなど 落葉裏など、越冬を寄せ集め、越冬したテントウムシも、気温の上昇で活動をはじめます。早いものでは2月のオオイサノフグリの花に集まりま



キブシ



シオン

また、好物の餌はアブラムシです。アブラムシのいる樹木の新芽(ヘラなど)に集まり産卵をはじめます。また、土や朽ち木の中などで越冬したコガネムシ、ハナムグリ、カミキリムシの仲間もはい出し、餌を求めての活動をはじめます。早春の日差しをなが、野山の新しい生き物の活動を観察するのも楽しみです。

栄町 老舗屋の てづくり上生ひながし

やめられない お菓子たち Vol.8

ふわりさつぷりまじょんぼりに 和の心をたたくまじょんぼり

誕生三月は彩り豊かに。お菓子がおいしい季節です。春餅、桜餅、一袋内に召込だたくさんのおひなごし。お菓子の魂に勝って、お節回しをしましょう。1個230円

栄町本店/栄町1の16の46 電話:22-3020 第3水曜定休 アミーおたちかちもあり

Odawara Driving School

大型車実習校日は11日間で卒業可(学科なし) けん引実習校日は7日間で卒業可(学科なし) 普通車も場内2階席、路上3時間限られます。

【教育科目】

大型・けん引・普通・普通自動車二輪

(ローン制度あり)

※通学より徒歩5分 スクールバスあり 駐車場あり

神奈川県公安委員会指定 小田原ドライビングスクール 通正寺540-2 TEL (36) 1215-7

卒業します！

ミス小田原

1年間の任期を終え、間もなく卒業を迎える99ミス小田原。彼女たちにとってこの1年間はどんな年だったのでしょうか。今の心境を聞いてみました。



左から木村智子さん、星崎晴美さん、古谷菜穂さん

さかなまつりに参加したとき、威勢のいいかけ声と活気あふれる雰囲気、驚いたのを覚えています。今まで地域の行事などに参加したことがなかったのですが、体験することですべて驚きでした。とても楽しく、勉強になった1年間でした。

古谷菜穂さん

4月からカナダに渡って新しい生活をスタートさせます。でも、ミス小田原になっていなくなったら、海外就職など考えなかったらどうでしょう。この経験は「私にチャンスをつかむ勇氣を与えてくれました。これからは第2ステージのついでに頑張ります。」

星崎晴美さん

どちらかというとあがり症。そんな私が最近では人前でも話ができるようになりました。これもミスの仕事のおかげです。将来の夢は、勉強中の語学フランス語を生かして何かをすることです。なんて結婚して素敵なお嬢さんになるのもいいな、なんて思っています。

木村智子さん

プライベートでも食事したり、とつても仲の良い三人。一生懸命に小田原のPRに努めてくださいました。どうもありがとうございました。そして、4月には、彼女たちの意志を継いだ、新しいミス小田原が誕生します。

小田原まちづくりセッション VOL.1

若者が考える小田原のまちづくり

「地球博物館・風と土のサロン」から生まれた「小田原まちづくりネットワークSORA(空)」が大変ユニークな取り組みを行っている。

今回の取り組みは「小田原まちづくりセッションVOL.1」と称し、学生時代を小田原で過ごし、建築家として活躍する傍ら、東海大学で教える杉本洋文さんと協力し、まちづくりに一石を投じたもの。

杉本さんが授業の中で小田原お堀端通り「ポケットパーク」(間口7m、奥行き18m)にカフェの設計をという課題を2年生120人に与えた。学生は設計・模型製作をするため現地を訪れ、全身で小田原のまちを感じ、この課題に取り組んだ。

1月29日に小田原国際交流ラウンジで開かれた意見交換会には優秀作品の学生8人と地元業者・建築士・行政職員など約40人が集い、学生から説明を受け、それに対して真剣に議論した。

学生にとって小田原のまちは「元気がない」「特徴のない商店が多い」など辛口の感想もあったが、「人が歴史・文化に誇りを持

って住んでいる」「路地裏通りまで大変おもしろいまち」などさまざまな声があったようだ。作品の中には、城の格子をモチーフに小田原のアンティークな感じを表現したもの、敷地から城が望めるもの、観光客と会話ができるようテイクアウト窓を取り付けたもの、壁がない2階・階段が表通りに開かれお客が風景の一部になるものなどユニークでおしゃれなものばかり。

参加者からは「斬新な発想に驚いています」「商店街も若者の声を聴く場を設けたら」など活発な意見が飛び交った。

学生にとっても、まちの人の声を生で聴き「大学の中だけでは学べないことを聞いた」とのこと。大きな成果だ。

小田原のまちに対する「SORA(空)」の活動はまだ始まったばかり。今後の動きに眼が離せない。



▲杉本さん(中央)と優秀作品の学生。長谷部徹さん(右、茅ヶ崎市)さんの作品は側面のすりガラスをスクリーンに見立て周辺の風景を取り込む透明感いっぱいのもの。西本功さん(左、町田市)の作品は城の石垣をモチーフにしたもので、思わずコーヒーを飲みたいくなるような雰囲気の出展映えだ。



茶の花・和菓子 歳時記

3月 わらび餅

自然に自生するわらび粉を入手することは、大変に困難。日本で一番いいわらび粉がとれると言われていた岐阜高山でも、ほんのわずかなになってきている。ただ日本人だけが、わらび粉のもつプルンとした感触を引き出して何にもとえようがない美味しさに何百年もかけてきたのです。さっぱりとした自家製のこしあんに包まれて、京きな粉をまぶしてみました。 菓の花店主 高橋台一

和菓子・菓の花 小田原駅前お城通り ☎21-1567 OPEN 10:00AM-6:00PM





第9回世界らん展 日本大賞優秀賞 永井清さん(高田)

ある約束

きっかけは20年前、妻の良子さんと横浜のデパートで買い物をしていると、目の前に黄色いメドウゴールドという種類のらんが飾られていて、そのあまりの美しさに二人はしばしば絶句した。そして早速、株を売店で購入し、持ち帰ったのである。これが永井さんとらんとの出会いだった。

以後、庭に専用の温室を作り、毎日欠かさず日誌をつけながら数々のらんを育ててきた。その結果、昨年ついに東京ドームで行われた「世界らん展」で優秀賞という栄冠を手に入れたのである。この時の作品「デンドロビウム」(写真中央)、ひと株に300もの桃色の大輪をつけた。永井さんは、今年2月に行われた沖縄での国際洋らん博覧会にも、実行委員会からの依頼を受けて出品した。



「温室の中で私が炭酸ガスを吐き、らんが酸素を出す。毎日その繰り返し。私たちは一緒に呼吸をしているんです」永井さんは、その年一番喜事に花をつけたらんを写真に撮り、年賀状にして友人に出している。友人も、らんを年賀状にして返してくれる。これが毎年の楽しみになっているのだ。小田原は気候もいいしらんを栽培するにはとても恵まれた環境。たくさんの人にらん栽培を楽しんでもらいたい、と話す。

イギリスに、サンダーリストという、らんを登録する世界機関がある。ここに、自分だけのオリジナル品種を登録することが、らん作りをする人にとって一番の名誉とされている。

「最高のオリジナル作品ができたとき、私は「リョウコ」と名をつけ、サンダーリストに申請します。10年前、ある女性と約束したんです」目の前に座っている良子さんに視線をやりながら、うれしそうに話した。

輝く 小田原人

始まりの予感

「ここに住んだら、いいことがあるかもしれないよ」という夫の言葉で、小田原に来ました。ここが始まりでした。桜の花びらが舞う風に舞い、とても良い気分でした」と岡田さんが言った。

最初から順風とはいかなかった。東京芸術大学を卒業後、声楽家としてスタートを切った。仕事をこなしながら、いくつかのコンテストに参加したが、なかなか結果がついてこない。「正直言って、東京から逃げ出したかった」という当時の岡田さんは、郊外に引っ越し先を探していたのである。「小田原に来てからは、不思議と運が向いてきたんです」引っ越しから4年後、彼女は神奈川芸術祭オープニング記念「第九」アルト・ソロオーディションに合格。生活が一変した。海外を飛び回り、音楽の都ウィーンでコンサートを行い、ベートーベンとシューベルトの国をうろめた。

「小田原に来て成功したのはは偶然じゃないんです。東京の雑踏の中で、仕事と家庭、



そして母親の三つの顔を持ちながら歌に打ち込むのは、精神的に不可能でした。新幹線の中で一呼吸置き、気持ちの切り替えができたのが良かったのです」と話す岡田さん。小田原の緑に囲まれた風景がとても気に入っている。しかし、それ以上に小田原の人の温かさに救われているのだという。だから地元での活動も大事にしている。市役所でのロビーコンサートに出演したり、「健康にいい発声練習」という教室も開いている。

今月、岡田さんは国立オペラ座の舞台を踏むためにスロヴァキアに旅立つ。歌声を通じてヨーロッパと日本との橋をかける目的のこの企画は、日本オーストリア文化交流協会とスロヴァキア国立オペラ座の主催で行われる。当日の岡田さんのアルトソプラ、CDとして製作される予定であるという。

子供のころ「自分の人生なんだから、やりたいことをやりなさい。そして、選んだ道は最後までやり通しなさい」と言ってくれた亡き父の言葉をいまでも胸に秘めている、という岡田さん。今は、最善の娘にこの言葉を伝えるべく、歌い続けている。

声楽家 岡田三千枝さん(城山)



火伏まつり

1月28日、満福寺(中里)で行われた火伏り修行に約1000人が集った。会場ではほら貝が吹き鳴らされ、多くの修行僧の登場で独特の雲田気をかもし出していた。境内では、スギの木とともに祀り上げられた人の背丈ほどに積み上げられた、それらに点火されると火を取り囲んだ参拝者はいっせいに「祈願棒」を手に投げ込み、お祈りした。

住職が熱湯を笹の葉で何度も頭からかぶり、いよいよクワイマックスの火渡り。読経により住職の顔が精神統一でみるみる紅潮し、一気に燃え上がる火の中を渡り歩き、山伏・参拝者も次々とこれに続く。



火災予防・無病息災・悪魔退散をお祈りするこの行事は小田原の冬の代表行事となっている。

小田原 彩時記

小田原を売り出そう

「小田原情報」

大募集！

☎ 広報広聴室 ☎ 33-1261

「広報おたわら」が 他の広報誌と違う理由！

市民の皆さんに伝える大切な情報を載せる広報誌。その役割は重要です。まずは手にとって読んでもらう。次に理解してもらう。この点を最重視して作っているのが

「広報おたわら情報」なのです。「広報おたわら」は、ただ単に市役所からのお知らせ情報載せているだけではありません。なぜなら、この冊子はみなさんと市役所の心を一つにして一緒にまちづくりを行うための架け橋だからです。1日号と15日号の性格を区別したのもその一つ。政策や計画などまちづくり情報を詳しく掲載します。「広報おたわら」は常に進化していくのです。そのため、どんどんご意見をお寄せください。

広報誌だけじゃない。 小田原の情報発信！

小田原市で行っている情報発信は「広報おたわら」に加え、テレビ・ラジオの番組

心におみやげ、
見つけて小田原。

への情報提供をはじめ、新聞・雑誌、インターネットなどあらゆるメディアを通じて、小田原のすばらしさを発信しています。その情報数は、年間600件を超えています。皆さんがよく見かけるものは、市から提供しているものがたくさんあるのです。

皆さんも、どんな情報でもお寄せください。都市イメージの向上につながるものは、積極的に発信します。



教育は、川の中に
「昔の人は、みなこうして素手で魚を捕った。でもそれは自分が生きるため。売ることが目的じゃない。自然はみんなのもの、商売にしちゃ絶対いけないんだ」これが門松さんの哲学。小田原ネタカを乱獲して商売にした話などを聞

くと、とてもがっかりするそうだが、今は応用が利かない、とよく言われるが、これは自然に触れていながら、と話す門松さん。「自然は広い。いろんなパターンに対応しないと生きていけない。だから、子供は小さいうちから、自然に親しむことが大事なんだ。そうすれば、失敗してもやり直し

門松さんは、川で手づかみで魚を捕ったり、山で山芋や山菜を探る名人。うなぎやナマズ、カニまで素手でとる技術はまさに神わざだ。名人は雑誌やテレビなどで活躍しているが、TBSテレビ「笑顔がいはばん」では、笑顔大将を受賞した。しかし、これほど取り上げられる理由は他にある。それは、自然を誰よりも愛する心と、その人柄なのだ。

手づかみ名人 門松進さん (蓮正寺)

小田原は自然もいいし、 捨てたもんじゃない

松さんへのプレゼント(自筆)

じあんじょと梅と門松さん



ができるたくましい大人になる」門松さんの家には、毎日のように子供が川に誘いやつてくる。彼らは、魚捕りをしながら、仲間の大切さと同作業の楽しさを学んでいる。みな、門松さんが大好きだ。「自然には、いらぬ物すべてに意味があるんだ。枯れ草だって、腐れば次の世代を育てる肥やしになるんだ。小田原にはまだ自然が残っている。この自然を残していきたいね」

